

「ふれあい恐怖的心性」の対人関係について

インターネット調査による試み

岡田努, (金沢大学)

キーワード：対人恐怖, ふれ合い恐怖的心性, 不安場面

青年期に頻発する対人関係の障害の一つに「対人恐怖症」がある。中でも、対人恐怖の新しい型として会食など対人関係がより深まる場面に困難を感じ、関わりから退却してしまう「ふれ合い恐怖」が指摘されている(山田,1989など)。岡田(2002)は一般大学生において見られるふれ合い恐怖的心性と不安を感じる対人場面との関係について検討し、山田による臨床的記述と同様の傾向を見出した。しかしこの対人場面に関する項目は作成以来10年以上経過し若干陳腐化した項目表現も見られる。よって本研究では不安を感じる対人場面について項目の加筆修正を行い対人恐怖及びふれ合い恐怖的心性との関連を再検討するものである。

一方、近年、社会調査の分野を中心にインターネット調査が急速に広まっている。特に調査会社の登録モニターが回答するクローズド型インターネット調査は、広範囲な地域から回答者が得られること、調査実施に関わる各種コストの削減、回収率を維持しやすいことなどのメリットが挙げられている(轟,2010)。しかしながら心理学の変数において従来の紙媒体による質問紙調査との結果の相違については十分に明らかとはなっていない。よって本研究ではまずインターネット調査を先行して実施し、紙媒体質問紙調査との比較のための基礎資料を得ることも併せて目的とする。

方法

予備調査 大学生に対して、日常経験する対人場面で、不安に感じたり、自分の居心地が悪く感じたりする場面について自由記述で尋ねた。評定には独立行政法人メディア教育開発センターが開発した REAS(リアルタイム評価支援システム)を用いた。有効回答数は6名(男子2名,女子4名)、実施時期は2013年6月であった。

本調査 マクロミル社によるクローズド型インターネット調査を利用した。実施時期は2013年7月であった。

回答者 国内各県の4年制大学学生および卒業生206名(男女それぞれ103名 19歳~25歳)であった。

質問項目 1) **不安場面項目** 岡田(2002)が作成した項目のうち表現が陳腐化したものを訂正しこれに予備調査に基づいて作成した4項目を加えた40項目の対人場面について、安心度を尋ねた。選択肢は「1 そのような場面は経験がない」「2 とても不安である」~「7 とても安心できる」の7段階であった。

2) **ふれ合い恐怖的心性尺度** 岡田(2002)において作成されたもので「関係調整不全」「対人退却」の下位尺度から成る。「1 まったくあてはまらない」~「6 とてもあてはまる」の6段階であった。

結果と考察

不安場面項目について「そのような場面は経験がない」への回答を欠損値とみなし多重代入法による欠損値の推定を行った(他の選択肢への回答については1~6点に換算した)。項目間相関を求め5種の代入値間で統合された相関係数を入力変数とした最尤法による探索的因子分析を行い3因子を抽出した。PROMAX 回転後4以上の負荷量を持つ項目を解釈した結果、岡田(2002)と同様に「1 公的場面・年長者の前」「2 心情的に遠い他者との場面」「3 心情的に近い他者との場面」と解釈された。合成得点を求め、ふれ合い恐怖的心性尺度得点との間で、欠損代入値について統合された相関係数を求めた。また、岡田(2012)において関係調整不全感が対人退却という行動を引き起こしていると考えられたことから、関係調整不全ないしは対人退却を統制変数とした偏相関係数も求めた。Table 1 に結果を示す。

Table 1 不安場面項目との相関

	公的・年長者	遠い他者	近い他者
対人退却	-.208**	-.338**	-.375**
偏相関	.004	-.118	-.302
関係調整不全	-.333**	-.402**	-.233**
偏相関	-.266	-.259	-.006

ここに見られるように、「公的場面・年長者の前」「心情的に遠い他者場面」は**関係調整不全**との相関(偏相関)が見られる一方、「心情的に近い他者場面」では**対人退却**との偏相関が見られた。すなわち、山田が述べるように、心情的に近い他者との間でのふれ合い状況は、まずふれ合い恐怖を高めこれが「**対人退却**」との関係に表れていると考えられる。一方、「**関係調整不全**」は偏相関が0に近く直接にはこうした場面からの影響は受けないものの、疑似相関が見られることから、**対人退却**の結果として**関係調整不全**が生じたものと考えられよう。

本研究は科学研究費補助金 基盤研究(C)一般現代青年の友人関係における心理的脆弱性と社会適応の関連に関する研究の補助を得て実施された。